

4番 山口裕子議員

山口裕子議員／こんにちは。ただいま、議長の登壇の許可を得ましたので、4番、山口裕子の一般質問を始めます。

本日私は、1番目に、庁舎建て替えについて。2番目、これからの教育について。3番目、武雄市図書館についての質問をさせていただきます。

最初に、庁舎建て替えということです。特別委員会を決定しまして、12月2日議会でも報告されました。それによって武雄市民の方がいろんな声が上がってますし、新聞とか、テレビで見た方が、どうなるととか、どんなふうになっていきよっと、みたいな形で、声を聞きますので、まず最初に、その選定の場所も決まっていますし、経過ですね。これまでの検討経過の報告をしていただけないなと思います。最初の質問にさせていただきます。

議長／宮下つながる部長

宮下つながる部長／モニタお願いします。立て替えにいたる、経緯を若干整理をします。平成23年、3月11日、皆さんご存知の東日本大震災が発生しました。その皆さんご記憶があられるかと思いますが、きわめて、庁舎の重要性というのが、クローズアップされたところでした。

半年後の、武雄市においては耐震診断が出ておりました。平成23年10月でございます。その結果の数値を見ますと、1番右下のほうに、耐震構造の指標0.69とありますが、いずれも数値を下回ってる。震度5程度で倒壊の恐れがあると、出ました。

また、新幹線の用地として、買収をされるという事実が、同時に起こりまして、平成25年の3月に、調整用地の一部が、売地されるその結果、まちづくり等が北方の方に、移転して、面積的には用地の2割が減少するということになりました。この2つの大きな理由があって、庁舎の検討をするということが、必要になってきたわけです。

平成24年1月に、庁舎の役所内での検討委員を設置しました。年度がかわって、同年7月に、特別委員会を設置をした。また、時期を同じくして、市民会議の設置をした。その後、25年2月に庁舎の基礎調査を外部委託して、地盤やそういったものを、全て専門的な試験をするということで、調査業務を終了した。

今年の5月、本議会におきまして、武雄市の議会におきまして、新規の建設計画を変更議決を頂きました。財源的な裏打ちをするということです。

議論の結果ですが、市民会議での意見のとりまとめとして、建て替えを行うべきというご協議をいただきました。25年の11月でございます。庁舎問題の特別委員会で、移転建替を確認いただくと共に、質問者が仰いました移転先の協議を進めてよろしいという御協議を頂きました。

こういった経緯がございまして、これから移転建替について、協議を進めていきたいとい

う状況でございます。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／庁舎の建て替えですね、新規に建て替えが決まりました。
市民の方が、今後、JA跡地とかいろんな形で市民も御存じですが、今後どのような計画と、
タイムスケジュールというか、何年かかるのかという声もあがっているので、スケジュール
的な事がわかれば方向性、わかりましたらお聞かせください。

議長／宮下つながる部長

宮下つながる部長／今後のスケジュールですが、まず、JAさん周辺という用地の件について
は、相手様がいらっしゃる事なのでこれからの協議をどの段階で進めるかということに
なろうかと思えます。

その間、われわれとしては、庁舎の内部で基本計画の策定という作業を進める必要があります。

それを取り急ぎ、作業を終わりたいと思っています。

できれば今年度中、来年の3月末までに基本計画の構想案をまとめたいと考えています。

その後ですが、議会での説明、それから市民会議での説明。

パブリックコメント、こういう広く皆さまに議論をいただくようなステップを得まして、
基本計画が上出をされますと、基本設定に入っていく。

こういう段階になると考えています。

そういう作業を積み上げますと、平成27年度中には、早くて着工したい、こういうふうな
スケジュールを現在考えているところです。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／これまでも機会があつて、新庁舎に対しての構想とかもいろいろお話があ
つてと思いますが、市民の方もいろんな要望があつて、それをどこで伝えたら良いのか
というがあるので、何点かはきょう、質問します。

市長さんは、庁舎の機能や景観、議員からもいろんな要望が出ていますが、全体枠、全体
像という形で、現時点でどういう機能、特徴があるか、どういう構想をお持ちかお聞かせ
ください。

議長／樋渡市長

樋渡市長／最初にお断りしますが、執行部を代表しての意見ではなく、私の私見として受け止めてほしい。

まず、東日本大震災で被害に会われた市や町を訪れて、1つの庁舎で「だめだよ」と言うお話ですので、ある程度、ここの庁舎だめになったにしても、こっちが使えると。

1つの土地の中である程度分散したほうが良いという議論した記憶があります。

私はその通りだと思っています。

わたしは本庁舎は相手がある話なので、確定的なことは言えませんが。

できれば市民の利便性を考えた上では、JAさんの土地に本庁舎を置いて、1階を市民課の皆さん、そこで食事ができれば、なお市民価値が増すだろうなど。

そして、今のこの施設については、武雄の商工会であったり、武雄の公民館、婦人会さん、老人会とか、そういう市の関連に深い団体に入っていて、そこにあわせて、市民がある程度自由に使える会議室とか、ミーティングホールができればいいと思います。

蘭学館等については、お金がかかる話で、全体の方向性を決めるものなので、これは次、***されたあとの議会で十分ご議論していただきたいと思っています。

私個人としては蘭学館はあったほうが良い。

議会でご判断、ご審議をお願いします。

それと、私の希望は、議場は1階がいい、ガラス張りにしたいと思っています。

ぜひ「しろ」と言われてますので、ガラス張りにして、かつ1階にして、議会で使われてないときは、講演やコンサートや多目的な場所にとっているのでは、ぜひそういうふうにしたほうがいいと思っています。

ですが、予算を***話なので、これも、議会でご議論していただきたいと思いません。

いずれにしても、JAのところだけに庁舎とはなりません。

JAのところにおくということと…あまり言っちゃいけません。

駅の周辺も含めて、そこに本庁舎があつて、もうひとつは関連の商工会の関連の施設については、こちらのほうにと言う、ゾーンになってくる。

議員、御指摘のとおり、武雄らしい景観には配慮したいと思っていますので、木目等を生かして、木造じゃありません。

中も外もそういうふうにして、できれば、かわらについても生かしていきたいと思っています。

いずれにしても、これから議論を、市民の皆さんも広く意見を賜ることにもなるので、いろんな意見を賜ればありがたいと思います。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／すみません、このあとの質問で、議場のことで質問を用意していましたが。

その前に、こういう議員達は、市民の代表の声を届けるところなので、みなさん建て替えとなるといろんな声が出て、よりたくさんの方の意見を盛り込んで決まっていこうと思うので、そういう機会を使って皆さんの声を伝えていきたいと思っています。

今、手に付けられなかった、森林の再生事業ということで、武雄市と武雄杵島森林組合と一緒に、水環境景観環境生物多様性、環境教育などの面で重要な森林を環境林として選定し、スギ・ヒノキ林を対象に間伐などの森林づくりを進めていくということで、うちの地区もきのう・一昨日くらいに説明会がありました。

要するに、荒れ果てている森林を整理していくというか、整理する事業が始まっています。それと同時に、私のところには、ぜひとも庁舎を県内の木材を使うという推進もありますので、そういう地域のもので地域のものでできあがるようなのに、盛り込んでほしい。

庁舎の中に盛り込んでほしい、という声が届いていて。

私もいろんな、そんな意見を聞いて調べると、NHKでも放送されたタテヤマ資本主義という本の中にも書かれています、木材の組み合わせによる、コンクリートにかわる、木造構造建築の意向がはじまっていると。

これも実証されて、火事、耐震などにも十分に評価されている。

ヨーロッパが主にどんどん進んでいる。

日本でもあらゆるところで、そういう使い方がされていますが、新しい、集成材が、CLTといいますが、それをぜひとも県内の木材を利用して、武雄市の庁舎に活用できないかという意見がありますので、それに対して、市長はどうお思いか、お尋ねします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／実は CLT については、私たちは研究を始めております。

スウェーデンやノルウェーでは、30階建てのビルが木材というのも珍しくない。

単純な木1本だとなかなか耐震性はないが、集成材は組み合わせて、強度や軟度とかというのをしていくのは岡山県を中心にはじまっています。

これについては、われわれとしても、今すぐ着工にはなりませんので、十分、ここはしないという意味じゃないですよ。

研究をちゃんとしていきたい。

一番、課題になるのは、防火対策は、大丈夫だと来ていますが、一般の方が見たときに、木で怖いのは防火だと思います。

それとコストの問題になります。

今回、新たな市民負担はゼロで作りたいと思っています。

35億円程度かかると思います。

新たな市民負担はゼロにしたい。

コストの問題と、主に私は耐震よりも防火を踏まえながらしていきたい。

いずれにしても、どういう構造になったであれ、県産の木材は多用します。

屋上もまわりも多用したい。

議長／4番 山口議員

山口裕子議員／いまから、進んでいって、それは、ヨーロッパで広められたように、進んでいって、鉄筋コンクリートから木造構造建築へという形で、耐火にも強いと結果も出ていますし、実際、2000年から、ロンドンイタリアでは9階建てまではふつうにこの建築がされている。

オーストリアなどは、石造りの町並みが、木造へシフトしていると。

これは武雄市の庁舎にもいかせると思う。

森林が荒れ果てて、間伐材にも活用できるなら、集成材にはクロスラミニティンバーというんです。

直角に貼り合わせたもの。

高知駅の表のかざりなども、そういうのも集成材でやられたり、いろんところでやられているので、ぜひとも、研究でだめでしたじゃなくて、取り組んでほしいと思いますが、いかがでしょうか？

議長／樋渡市長

樋渡市長／まったくゼロというのは、ありません。

やると思ったらやりますが、ですがいろんなやりかたがある。

100%CLTというやりかた、車で私はプリウスに乗っていますがガソリンと電気のハイブリットもあります。

それと、駅の周辺については、鉄筋コンクリートで。

例えば、商工会や婦人会が入ってもらうものについては、木造になるというやり方もあると思うので、現実可能的に、しかもコストも見ながらしっかりしていきたい。

仮に鉄筋コンクリートになったとしても、親戚がカナダにいますので、カナダの建造物は、びっくりしたのは、議場の後ろ、あるいは杉原議長の後ろの木を外観にも多用している。

「木造ですか」ときいたら、貼っていると。

外にも中にも貼っていて。
地元の木材の振興に寄与すると。

そういったことから、しっかりやっっていこうと思っています。
木はとても、落ち着く効果もある。
武雄市図書館がいわれている。
僕にはもっと木が必要だと思っています。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／ぬくもりがあって落ち着くのと、行政が IT などいろんな形の中で方向性の中に、全部が全部、循環型でなくていいが、きちんととり入れることが、武雄市の魅力になってほしい。

ですから、建築物で CLT を使えなかったにしても、館内に入れば全てが木材とかカウンター、テーブルとか。

武雄の木材ですと、そういう形でアピールできるのは、ひとつの、新しい注目される場所、みんなが憧れる場所になると思いました。

いかがですか？

議長／樋渡市長

樋渡市長／大賛成です。

次は選挙ですので、当選した後の話をしてほしいですが。

例えば、政策部は、山内の木を使う。

つながる部は、朝日町の木を使いましたと、物語があるようにしたい。

これはとても大切。

ですから市民の皆さんが、自分たちの森から出したと、物語をつくっていききたい。

そういう意味で、木というのは、特に子どもたちですよ。

子どもたちと行政の結節点になると思っていますので、木を使っていききたい、このように思っております。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／せっかくですね、環境の整備も始まったことですし、時間もある程度決めるまでであるとおもいますので、そういう意向でしてほしい。

やっぱりどこで言えば、そういうのが届くのかしら、私たちの声は、届くのかしらと、熱のある方が、あなたも勉強してそこらへんを市長さんに言ってほしい、こういう形が少しでも実現するといいなおっしゃっていますし、ぜひとも研究してほしいと思っています。

先ほどいいました議場の件です。

行政視察にいくと、ほとんど議会の議場を見させていただきます。

ここは古くなっているのですが、憧れのような素敵な議場があって、わーという歓声ばかりですが、新しく新築になりました那覇市役所とか、3年くらい前だったら、堺市役所とかね、円形議場になっていました。

私たち見ても、円形にしないといけないという声はあがっていないが、同僚は、これにせんといかんという声はなかったが、そこに併設されている、ガラス張りの、私たちから言わせれば、親子席というのを昔言っていました、ガラス張りで、小さい子どもを連れてお母さんが傍聴できたりとか、音楽とかこういうのがあるときは、おしゃべりしてても、見られるような、傍聴席が用意されてたんです。

それは、議場が今後新しくなって多様化して使われるにしても、これはあるといいなと思います。

今後、そういう形を進めていかれるので、検討されると思っていますが、見解をお聞かせください。

議長／樋渡市長

樋渡市長／大賛成です。

その中で、議場といえども、議会だけというのは古いと思います。

使っていないときは、ミニコンサーとがあったりとか、いろんな講演だったり、市民が気軽に入って来れて、かつ、子どもさん連れでは、行きにくいなという方に配慮して、ガラス張りのこととか、十分に踏まえていきたいと思っていますし、これこそが、議会でぜひ、いろんなご意見をいただければありがたいです。

先ほど、一般質問こそが最大の執行部に、皆さんご覧になられているので、執行部に対する、ものいいの場だと思っていますし、これについてわれわれも見解を求める場というのが、一般質問が最高の場だと思っていますし、われわれも議会の皆さんたちも、その責任は、非常に重いものだと思っています。議会は言論の場だと思っていますので、そういう意味で、山口議員、山口議員って、4人もいらっしゃるんですけど、議員さんは、市民の声をここで届けるというのは、具体的に、どなたの議員とは、違って、具体的に届けてくださると、

誰も特定の議員のこと言ってませんから。ということは非常に大切だと、このように認識しています。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／傍聴とかできるのに、時間があっても、何かしら、行きづらい場所になっている。無料で入れるとか、知らない人は、そういう形だし。もう少し、気楽に行ける形を作るのにも、ガラスの張ったところだと、おしゃべりもしながら、見ることもできるし、ここにすぐ入ってしまうと、いろんな決まり事で、制限されたり、緊張して行く気にならないとかあるので、そこらへんも、市民が参加しやすい形をとれば、そういうふうになっていくと、いいんじゃないかと、思いますので、検討、今からいろいろ決まっていくと思うので、1つの、課題としてあげていただきたいなと思います。

次の2番目にこれからの教育についてです。これは主に、来年から、タブレットを使っての教育が始まるということで、私のもとに寄せられた声です。きょうはもう1～3番目の方皆さんがこの問題あげておられます。それを聞いて、そういう問題だったんだと、理解することができます。そこに当てはまらなかった、私が預かってる、意見を今からお尋ねしたいと思います。これからの教育についてということで。

私の年齢というのは、古川議員の時もそうでしたが、こういうもので育っていない、教育を受けていないから、いろんな抵抗とか、いろんな偏見とか、いろんなのがあって、逆に複雑にこう教育がはじまると捉えて、不安になったりとか、親の負担が大変だと、おじいさん・おばあさんが心配したりとか。そういう声があるみたいです。ぜひとも、今度始まるのは、こういうのじゃないんだよとか、理解を深めるため、質問が聞けたら良いと思うのですが。

午前中にも上がっていましたが、一番親子で、予習という形で、学童放課後児童クラブという先生が、指導員の先生が、放課後児童クラブはもともと宿題をするところじゃないけど、親御さんがそこで、宿題をすませてくれると助かるので、そういう形が、児童クラブで宿題をするのが、慣習のようになってる。タブレットで、予習となると、この放課後児童クラブの役割が大きくなるんじゃないって。家に帰ってくるというのは、今までも、お母さんたちが、本を読むのも、1回は聞いてくださいねといっても、保護者にいっても、時間がないもんねとか、仕事帰り、ごはん用意すると、もう子どもが眠くなってたとか、会話する暇がないとか仰るように。今の時代が、母親も仕事をして疲れて帰ってきて、食事とか一緒にしてたら、余裕がないのに予習型になると、どうしたらいいんだろうかと。まして教育、機械的なのに得意じゃないお母さんたちは、またさらに不安を募らせてるんですね。そしたらやっぱり放課後児童クラブで、今まで宿題をしていたように、予習という、そこで先生がしてくださるんじゃないとか、私は想像的なことですが、そういう事しかお答えできてないんですが、こういうのを踏まえて、朝の答弁でもあがってました

が、どういう役割を果たしていくのか、どういう関係になっていくのかというところを、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

議長／代田教育監

代田教育監／議員がおっしゃるように、いろいろ保護者の皆さまの不安等あるかと思えます。1つ、用意させていただいたのは、これから、保護者の皆さまへの説明会を、明日を皮切りに、3月いっぱいまでは、来年度、どんなふうに、使っていくのかを丁寧に説明をさせていただきたいと思えます。

冒頭私のほうで、反転授業とはという話をさせていただきましたが、10分くらいおはなしすると、誤解もとけてくる部分が大いだと思いますので、それぞれ、わざわざというわけではないので、研究授業や保護者会があったときに、それにあわせて、小学校でやる予定ですので、そういう形で理解をあおぎたい。

ご質問にあった、放課後児童クラブの役割ですが、家庭ではできない子がいたときは、放課後児童クラブが、今以上にやってくると思えます。そこに、人的な配置をもっとできないかとか、考えていかないといけないし、実際、教育委員会のほうでも、反転授業をサポートするよう頑張りたいとの、武雄市民からの声があるので、うまくつないで、放課後児童クラブが、地域の支え、地域に学校を作るといような形になっていけば良いと思えます。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／反転授業ということで、聞いてみれば、親もですね、子どものことに関心もって親子の時間が増えたりとか、タブレットを通して、そういうことはとても良いことだと思いますので。それを契機に親子で、そういう予習とか、親子でタブレットと使うことはとてもいいことだと思います。どうしても、それが放課後児童クラブの先生とかですね、知っておかないと、子どもたちは必然的に、そこで宿題とか、いろんな先生に見てほしいなとか思うので、そこらへんの教科も必要かと思えます。どういのが始まるかわからないのに、放課後児童の先生も不安だし、学校の先生も、武雄市にいくと、なんかいろいろあれだから、大変よねという声もちらほら聞こえるので。こういう説明とか、みんな想像の中で、いろんなこと、決めたように言うので、きちんと親御さんにも説明がこれからあって、理解をしてもらうことが、一番大切じゃないかなと思えます。

私たちも、たったそれだけで、2歳とか1歳とか孫だって、楽しくそういうタブレットとか使ってやっているのに、何かしらこの年代になると難しく考えて、どうやって使うのやろうと、不安になったりするの、最初からそういうのに触れていない生活をしているかなと、私は思っています。また、これが勉強の中のどれくらいを占めるのかしらって。全

部が、全教科とか全部にこれが入っていくのかしらみたいなことも、私のほうに聞かれます。いかがですか。

議長／代田教育監

代田教育監／先ほど、武雄式反転教育ということで、どういう流れか説明をしましたが、ここでタブレット端末自体を使う時間について説明します。

緑側が家庭で宿題をしますが、大体、動画とテストを合わせて10～15分ぐらいです。あとは紙にかいてなど、従来の形になりますが、動画をみて音声で聞く、とというのが子どもたちの動機付けになるということで、時間としては10分ぐらいです。

授業でどのくらい使うのかというと、研究授業をみていただいて、わかると思います。

授業の中でもごく一部です。

意見を収集とか、テスト問題をやるという形なので、授業の中でタブレット端末を使うのは、小学校の45分の間、5分、2回使えば多いほうかと。

算数と理科で考えています。

現実問題として、ほかの教科、国語や英語とか、社会とか、そういった教科には反転授業導入予定はないので。

全体的には5分の1とか、それ以下のくらいなので、1日に使うのが30分弱で、毎日あるわけではなくて、2日に1回ぐらいが、現実的な使用量かと思われれます。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／わかりました。

いろいろ始まっていないから、いろんな声があがってくると思います。

あと、私達の時代もいつの間にか、そろばんがなくなりましたね。

学校で習っていましたが、いつの間になくなったように、こういうタブレットが入ってくると、お道具箱、小学生に上がるときに用意します、あるんです。

名前を書いて用意するけど、あまり使われないし、タブレットが入ってくると、道具箱はなくなるのか、という質問もありますが、いかがでしょうか。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／なくなるということはありません。

画面での操作学習も大事ですし、実際に置き換えて活動的に学習することもあるので、まずなくなるということはありません。

議長／4番山口裕子議員

山口裕子議員／いろいろ意見があがるので、お道具箱セットを結構苦労して、名前を書いたり、入学の上で準備するが、使われてない、使っていないんですよって。

こんなのが導入されると、道具はないのですかと言われる反面、タブレットで物を生産するよりは、先生が教えるほうがいいんじゃないか。

手で触ってする。

先生がそういうふうに、この子は、これで教えないといけないとか、全部でタブレットで勉強しようとしても、そういう、道具を使っていく、という教育になるのかという、質問があります。

入学したときに全員一斉にタブレットを持つのに、うちの子はどうしても苦手っていうときには、選択ができるのかなっていう意見ですね。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／基本的に全員、持って、例えば、30名の子どもさんが、答えを出すことで、何君と何君が出していないというのは一目瞭然でわかるので、そういう対応が、タブレットならではだと思います。

ですから、理解を深める時には、そういう具体的なものを操作して、学習したがわかる子もいるかわかりません、それを今度は画面に置き換えたとき、どうなるかって学習もできるかと、子どもさんの状況や学習内容によって、使い分け、どのお子さんにも持たせて対応していく。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／良いところを引き出して、両方そういうふうにして教育をされていく、お答えのようですね。

それを持って、自分の子ども、あまり機器とかゲーム類とかそういうのにのめり込ませないで子どもを育てないなというお母さんたちの心配からすると、早く、1年生で機器類を全員が持つようにすると、方向性として、いま韓国のスマートフォンの依存症の病気とかがニュースになっているからか、知りませんが、そういう傾向になるんじゃないかという

意見もあります。

のびのびと子どもを自然体験とか、仲間と体験して子どもを大きくしたい親御さんからすると、早くそういう機器にふれさせると、そっちの方向性にいかないのかなと、機器類に対しての不安をお持ちですが。

そこら辺の教育を考えたとき、いかがでしょうか。

議長／代田教育監

代田教育監／ただいま、ICT をつかうと体験学習が少なくなるという議論がちまたで起こりがちですが、この ICT を使って、より話し合いとか教え込む授業から体験型に持っていきたいのが、大きな趣旨です。

一方的に授業をやっていたのが話し合いとか体験学習に。

皆さんにもご理解していただきたい。

最初に質問のあったインターネットにかんしては、配布する端末は家庭では、つながらない対応をしたいと思います。

やはり、つながってしまうと見続けてしまうので。宿題をきっちりやって、対応は 100%決まっていますが、10 時になるとそのタブレットは使えないという仕組みふくめて、インターネット中毒にはならないように、対応をしていきたいと思います。

議長／4 番 山口裕子議員

山口裕子議員／私もずいぶん理解が深まったし、いろんな見えないところで、不安をいだいたり、親御さんもきょうの答弁で見えてきたと思います。

また、学校別で説明会もあるので、そのときコミュニケーションを親御さんも持っていきたいとおもいます。

子どもは、わざわざ保育園のときから教育をしたいといって、保育園を選んだ親御さんもいらっしゃる中、すべての子どもが義務教育として、小学生にあがるので。

そこら辺の不安が、皆さん、きょうの答弁を聞かれて軽減されたと思います。

ありがとうございました。

次、最後です。

武雄市市立図書館について。

これは私も大変、武雄市図書館は、新しくリニューアルして、大変気に入っています。

本当にお客さんが多く、駐車場の様子を見ては、きょうは後回しにしようとか思うぐらいに、来館者は多くて、とても皆さんが気に入って、話題になっている図書館で良かったと思います。

市の財産が、眠っていた財産が、これだけよみがえるのを目の当たりにしたよう。夜も9時とか、わざわざ回って、今イルミネーションができたそうですが。イルミネーションがないときも、あそこの優しい電気というか、会館の眺めるのが好きで、わざわざそこを回って、帰っていました。

人気で良かったなど。大人達もああいう場所がほしかったと思うし、その自治体も、こんなふうに市の財産を更に活用しめたいという気持ちで武雄市を訪ねていると思います。

そういう今の問題点をさらに解決し、進めてほしいなというところで、いろんな意見があるんです。

市長は、文化会館、大ホールの方、耐久に絶えられなくなっているのも、ちらほら、あそこを児童の文化部というか、ちらほら意見が私に寄せられています。

子どもの居場所として、残念ながら、私は重々子どもたちのために場所も良い場所を取ってほしいし、広げてほしいと思って、意見を言っていて、聞いていただいたんですがそれ以上にお客さんが多くて、中に入っていけなくて、行きづらいうような、子どもたちがですね、環境にある。

大人の人の席が足りない、環境にはとても、残念です。

嬉しいことですが。

大人も、みんながあそこで本を読んだり、話題の本を読みたいと、集中した。また後の質問で、要望したいと思うが、今について、市長はどういう見解をお聞かせください。

議長／樋渡市長

樋渡市長／いまの図書館が予想以上に多くの方がお越しになって、特に週末は、前と比べると子どもたちのスペースが、可動面積が1.4倍広げたにもかかわらず、子どもたちがいなくても大人に小さい椅子が占拠されてるのを見ると、非常に嘆かわしい気がします。それによって子どもたちが居づらい状況になっている。

これは良いこともあれば、反作用、副作用もある。

議員からあったように、少なくとも私は、文化会館の大ホールが老朽化の極みに達しています。

吉川議員さん、山口昌宏議員さんからも、一般質問にありますが、いまのままで維持する方が、莫大な市民負担になりかねないので、あの場所に文化会館の大ホールは大ホールとして、違うところに建てるのが前提で、今の大ホールの跡地を、キッズライブラリー、児童図書館にしたい。

それにあわせて、駐車場もセットで考えて、今の図書館がどちらかという大人向けの、文化会館の大ホールに跡地につくるものは、図書館が子ども向けあるいは親御さんと一緒にという魅力的な図書館にしていきたい。

これについては大きい話なので公約に盛り込みます。

議会の議決を伴う話ですので、特に与党会派との政策合意をして、市民の皆さんとあわせてしていきたい、このように思っております。

いずれにしてもこれは、山口裕子議員さん、上野議員さんなど女性の視点を十分に取り入れる必要があると思うので、しっかり意見をきいてまいりたい。

それによっていろんな問題課題が、軽減できるようにしたい、このように思っております。まさか図書館がこのようになるとは思っていませんでした。

嘆かわしいのは、青陵中学校のこれ、ペーパーで出しているらしい。

商業施設なので1人では、行かないでほしい。

どう思います？

ペーパーで、実物で見たことないんですが、上田議員さんという方から、こういうペーパーが来ていると聞いていますので、間違いはないと思っています。

理由も、武雄中学校は、どういってるかという、直接学校から当該施設には行かないでほしい。

1回家に帰って、行ってほしいと。

これはわかる。

だけど商業施設だからといって、行くなというのは、それは青陵中学校は、横暴だと思います。

佐賀県の教育委員会がこんなことだと思いますか。

これは勝手に判断していると思う。

反対意見なら言ってほしい。

武雄中学校とおなじように、一回ちゃんと考えてほしいと思います。

今のままの武雄青陵中学校の姿勢については、感化しません。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／そのことについて、いま初めて聞きましたが、子どもたちは、素直にああいうところで、本を読んだり、ちょっとだけ大人な気分になったりといろんな経験もできる。

私としてはそんなふうに、校長先生が考えるか、わかりませんが。

あえてモニターで用意しなかったのは、この図書館の問題が出てきたときに、山内町に図書館がほしいと思ったときに、見本にしていた伊万里図書館に子どもたちのスペースがあり、グランドピアノ、ぬいぐるみやかざり付けがあって、親子で楽しめる空間をたくさんとっている。

それと、登り窯みたいな形で読み聞かせをする部屋とか。

時代もかわってきているから、武雄市のような図書館も居場所として必要だけど、子育てしながら、どこでも子どもをつれていけなかったり、窮屈な思いをして、育てている人が多い。

私も感じたことがあるので。

そういう意味から、武雄市図書館が生まれ変わるときに、子どもたちの場所をとってほしいといっていた。

子育てのお母さんや、人口が増えてきたが、三日月の図書館、キッズルームが用意されて、高校生、中学生が、その部屋を利用する。

子どもたちがゆっくりできる環境が、ほしいなと思っていました。

でも今は大人も子どもも、欲しいなとはっきりしましたが、ぜひ今度の構想で、盛り込んでほしいなと思います。

武雄市は市長が最初のころから、飲食は子ども連れではできない。

総合子どもセンターというのも北方にありますけど、いろんなことを盛り込んで、児童セン

ターは18歳までですが、お兄ちゃんとお姉ちゃんや小さい子どもが、異年齢でいられる施設が私はいいんじゃないかと思います。

新しい施設は、今は窮屈かもしれないけど、がまんしてて、市長が考えてくれるから、いろんな意見をいって、次に盛り込めるようにしようねと、子育て中のお母さんとか、いまの図書館の問題を言ってくる方には、言っていますが、市長さんは、その辺を踏まえて、どうお考えか、お聞かせください。

議長／樋渡市長

樋渡市長／そのとおりだと思います。

ですので、子どもたちの意見もしっかり聞いていきたいと思っています。

まだ時間的に、今すぐ作る、今すぐ改修するような話ではないので、皆さんに考えてほしいと思いますし、多くの皆さんがご覧になっているので、家庭の中でも、次の、児童図書館、こんなのがあったらいいよねとか、家庭の中でぜひ議論をしてほしいと、思ってます。

ですので、図書館というのが、こんなに垣根が低い、ハードルが低いのは、夢にも思っていなかった。

今まで図書館はマニアの人たちの、マニアのマニアによる図書館だったというのが、あるんです。

非公式なものですが、図書カードつくって、なにもいってくれないとか、あるいは、十数%の人しか、月に1、2回しか使わないとか、そういう公共施設ではあってはならないと思うんです。

皆さんの税金で運営されてますので。

図書館に縁遠かった層、前の図書館で山口昌宏さんとか見たことないですよ。

今は、毎日のようにいて、借りたり、読んだり、スターバックスでコーヒーを買ったりするのを見ると、やって良かったと思います。

今までの図書館だったら、あの人いてませんよ。

そういう意味で言うと、図書館、本に縁遠かった層に、ちゃんと届いてるっていうことからすれば、ありがたいと思います。

私も蘭学館長く行ったことありますが、1回も江原議員、見たことはありません。

ちゃんときて、ものを言ってほしいです。

見たこともないのに、そうやって上から目線で言うのは、共産党のやりかただと思います。

暗黒質問ですよ。

そうでなくて、実際に、体験、体感をして、いろんなご議論をしていただければ、ありがたい。

議長／4番 山口裕子議員

山口裕子議員／武雄市図書館に結果的に、子育て中のお母さんたちが、大人の人が、多すぎて、こういう結果になりましたが次に、こういう市長さんはこういう考えをもっているから、ぜひとも、いろんな意見を言ってくださいと、私もいってますし、それにつないでいってほしいなど、思っています。

また、赤ちゃんをつれた、若い夫婦とかも、子育て中であっても、ああいう雰囲気の中かに、入りたいですね。

赤ちゃん連れのお母さん、お父さん本当に多いし、よかったですと思います。

子どもたちが、ちょっと窮屈な思いしてるというのと、子どもの雰囲気を作るのに、足りなかったというのを、次の、そういう居場所作りというのに、活かしてほしいと思います。

私は、図書館活動している人が、武雄市外から、たくさんの友達が来ましたが、大変うらやましがって、こんな図書館がほしいという意見を言って、武雄市うらやましい、いいねと、きいています。

さらに良くなってくように、今後、努力をしたいと思ってます。

これで、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長／以上で、4番 山口裕子議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、10分程度休憩いたします。

* 休憩中 15:01 *

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問に入る前に、先の江原議員の質問で、旧蘭学館の備品の取り扱いについて、補足説明の申し出がありますので、これを許可します。

古賀教育部長

古賀教育部長／旧蘭学館の備品につきまして、これは旧蘭学館の絵ですが、もちろん歴史

資料、説明のパネル類、こういったのは保管しています。

撤去をいたしましたのは、備え付けの、備品について、どうしても撤去しなければ、できないというのが、いくらかございました。

これは蘭学館の奥から見た絵ですが、大型モニタ、それから体験型のモニタ、これが6台ございます。

ケースについては、丸型、壁面のケースなど、こういった備え付けのは撤去をしていますが、残せるものは、先ほど申したとおり、パネルというか、レプリカ、こういったものを全部残しているの、これを答弁に変えさせていただきたいと思います。

以上です。